

2008 年度

科目名 宗教学講読 B	対象学科・学年 文学部文財 2 回生 人間人社 2 回生	担当者 貫名 譲
授業テーマ 『歎異抄』を読む		
授業の概要と目標 鎌倉時代は、人々の生活観・思想が大きく変化していきます。そのような時代に、新しい風をおこした者たちが登場します。法然・親鸞・一遍・栄西・道元・日蓮です。彼らは独自のスタイルを打ち出していきます。親鸞は、「悪人こそが救われる」と説きました。ところが誤解するものも多く現れます。そこで親鸞没後、弟子・唯円が教えの真意を正そうと筆を取りました。授業では、唯円によって著された『歎異抄』を読みながら、親鸞の思想に迫ってみたいと思います。		
評価方法 レポート試験（５０％）、出席状況・授業態度（５０％）、総合評価で行います。		
テキスト	著者	出版社
参考書 初回の授業時に紹介します	著者	出版社
授業スケジュール・内容 ① はじめに ② 鎌倉新仏教の特徴 ③ 親鸞と唯円、『歎異抄』とは ④ 第1条 念仏とは ⑤ 第2条 よきひとのおほせ ⑥ 第3条 善人よりも悪人の法が往生しやすい ⑦ 第4条 助けることは難しい ⑧ 第5条 供養の念仏ではない ⑨ 第6条 弟子は一人もいない ⑩ 第7条 念仏の道とは、念仏に生きるものとは ⑪ 第8条 念仏は行ではない ⑫ 第9条 歓喜と煩惱 ⑬ 第10条 はからいを離れる ⑭ まとめ ⑮ レポート試験		